

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者 埴 広治
編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会

「白い岩」と地球温暖化

只見町教育委員会教育長

渡部 早苗

夏の日、青い空の下で「白い岩」は輝いていた。本当に真っ白だった。子どもの頃、大好きな夏休みになると伊南川に水浴びに行った。太陽が一番元気の昼下がり、当番の大人と6年生に連れられてみんなで毎日行った。伊南川に架かる小川橋の少し上流の広い岸に「白い岩」はあった。小さな山が連なっているような、なだらかな丸みを帯びた島のような大きな石灰岩だった。所々にくぼみがあって、そこにはメダカもいた。それを飲むと泳ぎがうまくなると上級生が教えてくれた。泳ぎ疲れて休憩時間の鐘になると、みんなで飛びついて遊んだ「白い岩」。子どもたちにとって楽園だった。

そのうち、川の水の汚染により伊南川では泳げなくなった。かじか捕りもできなくなった。それでも小川橋から眺める「白い岩」はきれいで、楽しい思い出も浮かんできて幸せな気分になった。しかし、いつからか豪雨に

よる激流が「白い岩」を砕き、水流の勢いで周辺にも災害が及ぶようになった。そこで川に大きな重機が入って「白い岩」は 跡形もなく取り除かれた。

今子どもたちに「白い岩」の話をして想像できないようだ。小さい頃の夏は、真っ青な空と入道雲、暑くても日陰は涼しく、30℃を超える日なんてなかった。そして不思議にも大体同じ時刻に夕立が訪れた。あの規則正しく美しかった只見の夏が懐かしい。

このままだとキリバスの国土が海に沈んでしまうという話は他人事ではなく、温暖化による気候変動によってこの山の中も災害が増え、確実に危機的状況が訪れる。

今自分たちにできることは何かを考え、小さな力ながら「故郷の自然や文化を大切に思う心は地球を守る」と信じて学校、地域が連携して、子どもたちの「SDGsを考え、豊かに生きる力」を育てていきたい。

教育は未来への投資

福島県教育庁南会津教育事務所
総務次長兼総務社会教育課長

鈴木 康徳

県職員勤務30年を超え、私自身退職へのカウントダウンが聞こえる中、今回南会津教育事務所に配属となりました。思えばこれまで様々な部所を事務方として経験しましたが、その中でも教育関係で経験した勤務箇所としては、高等学校（田島・会農各3年）、会津大学短期大学部（3年）、医科大学（3年）の4カ所です。今回の教育事務所を義務系と捉えると小・中・高・短大・大学全てを経験したことになり、県職員の中でも珍しいのかなと自分では感じています。

そんな私から見て、それぞれの校種によって様々な違いはありますが、財務上一つ共通していることがあります。それは、教育機関の予算の殆どは人件費であるということです。「そんなの当たり前だろう、何言ってるんだ」とのご批判があらうかと思いますが、実はこの点が教育機関の本質を決定付けているのではないかと私は考えます。学校は、補助や外注（委託）により事業効果が得られるものではなく、

意欲と活力に満ちた教員自らの力によって最大限に効果を発揮できるものです。

いわゆる「教育は人なり」ではないでしょうか。

また、付け加えて言うなら、教育機関の人件費（一般には義務的経費）に限っては、「未来を担う人材」という社会資本を形成する投資的経費ではないかと考えます。これは、一般的に教育以外の行政サービスは現在世代に対するものが主ですが、教育機関の活動は将来世代に対する投資だからです。

まさしく「教育は未来への投資」ではないでしょうか。

最後に、私の職務はこの人件費を適正かつ円滑に執行管理していくことであり、一見地味な職務ではありますが、これまでの経験を活かしつつ、将来世代のためというモチベーションを持って取り組んでいきます。

『南会津』がつむぐ南会津ならではの学校教育！
～郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子供の育成～

光り輝く魅力的な学校づくり

～ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクト～

福島県教育委員会では各学校がそれぞれの課題を明確にし、独自のアプローチで児童生徒の学力向上を目指す教育を推進しています。今年度は3つのタイプの実践校(キラリ校)によるプロジェクトが行われました。

(1) 教科担任・タテ持ち推進校

教科担任推進校：檜原小学校(国語科・算数科) タテ持ち推進校：下郷中学校(英語科)の取組を域内に発信することで学びの系統性を活かした授業改善や教職員間の学び合いによる校内研修の充実につながっています。

(2) 小学校英語推進校

田島小学校、館岩中学校、旭田小学校に配置された「ふくしま外国語教育推進リーダー」3名が近隣の小学校で活躍しています。英語教育推進地区別研修会では、全員が授業を公開し、参加者は授業づくりや評価のポイントについて理解を深めることができました。

(3) AI時代を生き抜く読解力向上事業研究校

研究協力校の南郷小学校・荒海中学校では「リーディング・スキルテスト」の分析から児童生徒に身につけさせたい読解力を明確にして授業改善に取り組んでいます。

今後も、本プロジェクトにより、各学校の特色や実態に基づき、学校全体で協働しながら“キラリ”と光り輝く魅力的な学校づくりを進めることができるよう、その効果的な実践を域内全体で共有していきます。



道徳教育の充実

～道徳教育地区別推進協議会より～

本年度の域内道徳教育地区別推進協議会は、檜枝岐中学校を会場に行われました。

実践報告では、児童生徒の実態や小中連携、地域とのつながりを考えた道徳教育の推進について発表され、参加者にとって自校の道徳教育について考える機会になりました。

公開授業では「日本の文化を受け継ぐ」(主題) ことについて、文化祭で演じた歌舞伎の動画や檜枝岐歌舞伎の伝承者をゲストティーチャーとして招いての話をもとに、また檜枝岐歌舞伎と結び付けて深く考えることができました。コロナ禍にあつて、授業の参観は別教室を開放してライブ映像を流すなど、参加者が密にならない工夫をし、研修会の開催に努めていました。

研究協議は、授業の内容や各校での道徳教育の取組など視点ごとに行うとともに協議時間を予め設定するなどタイム・マネジメントを意識した運営により充実したものとなりました。

参加された先生からは、「子供達の一生懸命に考える姿が印象的だった」、「ゲストティーチャーの活用が効果的だと思った」、「研究協議の方法が勉強になった」等の意見が出されました。

檜枝岐中学校の取組や「道徳の礎」、「道徳のとびら」等を参考に自校の道徳教育の充実に向けて引き続き取り組んでください。



南会津に生きる、福島に生きる

～放射線・防災教育を通して～

防災教育実践協力校である江川小学校において行われた公開授業について紹介します。

5・6年生の総合的な学習の時間の授業では、プログラミング教材【MESH】を活用しました。自分たちの地域に自然災害が発生した場合にどのような課題が出てくるかを考え、その課題を解決するためのプログラム作りを行いました。防災教育にプログラミングを取り入れた実践は全国初の試みです。江川小の実践はソナーのHPに掲載されています。

https://blog.meshprj.com/entry/202012_egawa-elementary-school

御蔵入交流館での地区別研究協議会では、講師として大熊町立大野小学校教頭志賀仁先生をお招きし「震災と復興を考える」について講演をいただきました。



大熊町出身の志賀先生は震災時富岡町に勤務され、その実体験、映像をもとにした話でした。「南会津に住む子供たちも福島県人です。福島県人である以上、放射線教育をきちんと受ける必要がある。そして、子供たち自身が正しい知識を周りの人に伝えていく必要がある。福島の復興教育がこれからとても大切になってくる。」という言葉が大変印象に残りました。南会津に生きること、そして福島県に生きることをもう一度考えるよい機会となりました。

対処的支援から体制支援へ

～個別の指導計画の作成～

特別支援教育に関する調査(令和2年10月1日現在)では、通常の学級に在籍する児童生徒における個別の指導計画の作成率が、昨年度よりも大幅に向上しています。個別の指導計画の意義について、管理職をはじめ多くの先生方にご理解いただいていることの表れと捉えています。

個別の指導計画は、対象児童生徒が、各教科等において、「どうすれば分かりやすくなるか」の手立てや配慮について明記した計画です。

ある中学校においては、対象生徒に対して教科担任同士が、それぞれの教科等において実態を把握し、必要な手立てについて検討し、一枚のシートに記載して共有する取組が図られています。生徒の実態を多面的に捉え、困難さの背景に迫るために大切な取組だと考えます。

また、子供の進学時に個別の教育支援計画及び個別の指導計画を引き継ぐことは、体制支援を行う上でとても大切です。人や場所が変わっても、子供の特性に応じた支援が継続して行われるよう、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成、引継ぎをお願いします。



「南会津夢教育」No.103(学教課だより)では、特別支援教育について掲載しております。合わせてご覧ください。

『南会津』がつむぐ南会津ならではの社会教育！

～学校・家庭・地域が一体となった社会教育の実現～

家庭の教育力のさらなる向上に向けて

～家庭教育支援者南会津地区研修会～

今年度の家庭教育支援者南会津地区研修会は、多くの参加者を集められるよう中身を吟味し、昨年度好評であった小中学生による「主張発表」や親子の共通体験活動の減少を緩和すべく盛り込んだ「親子で体験」等を行いました。

「親子で体験」は3コースの選択制にし、興味のあるコースに参加する形にしました。また普段子育てに対し不安や悩みを抱えている方に向けての「講演会」では、コミュニケーションクリエイターのちやい文々氏をお招きし、「子育ては日々65点～がんばりすぎなくていいんだよ～」という参加者の意欲を掻き立てるすばらしい話をいただきました。

域内の幼・保・小・中・高校の全保護者へのチラシの配布、地元広報誌や新聞への掲載など、周知活動にも力を入れ、総勢110名を超える参加者を集めることができました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために広い会場を使用し、席を一つ開けて座るような手立てを講じたり、検温、消毒、マスク着用を呼び掛けたりなど、万全の策を講じたことで、当日は安心・安全のもと研修会に参加していただくことができました。「素直な言葉に涙が…。家族っていいなという思いにさせられました。」「親子でとても楽しい時間を過ごすことができました。来年もまた参加したいです。」「子育てに悩む日々ですが、今日のお話を聞いて心がとても軽くなりました。がんばりすぎず、心に余裕をもって子育てしていきます。」などの感想が寄せられました。

『チーム南会津』

南会津町教育委員会主幹兼指導主事

大内 進矢

現在、南会津町教育委員会に勤務し、指導主事として3年目を迎えました。学校現場を離れ、教育行政という立場での仕事には不安な面がたくさんありましたが、職場の皆さんや各学校の先生方のお陰で、充実した日々を送っています。

南会津町教育委員会では、学校教育指導委員の先生方とともに、学級経営スタンダード「子どもたちの笑顔のために！」を3パターン作成しました。1つ目は「みなみあいづ教師宣言」、2つ目は「学級経営スタンダード」です。これは、目標・笑顔・ルール・家庭・相談について示したものです。3つ目は「学級経営5ヶ条」です。この3つのスタンダードは、教育委員会も「チーム南会津」として、学校生活の基盤となる学級経営を支える担任の先生方の心の拠り所となれるようにという願いを込めて作成しました。各校で校長室や職員室に掲示したり、各先生がデスクマットの下に挟んだりして活用されているようです。また中学校区ごとの小中連携教育推進プランを2年間に渡り検討を進め、9年間の見通しをもった連携教育が推進できるよう、各中学校区でチームとしてプランを作成していただきました。

このように南会津町は、町全体を一つのチームとして捉え、子供たちの明るい未来のために、教委・校種の枠を越えて、職員がワンチームとなって取り組むことをめざしております。このような町の教育委員会に勤務できることは、とても勉強になり、今後の教員生活の糧になると感じております。これからも「チーム南会津」を合言葉に、子供たちの輝く笑顔を思い浮かべ、全力で仕事にあたってまいりたいと思います。そして、「チーム南会津」の一員として、子供たちを主役とした学校づくりに少しでも貢献できるよう、軸をぶらさずに、しっかりと各学校をサポートしていきたいと考えております。

＜みなみあいづ教師宣言＞

み：みつけよう、みんなの良い所！
 な：ならぬことはならぬ！
 み：みんな違って、みんないい！
 あ：あいさつ、安全、後始末！
 い：いつも明るく、笑顔で！
 づ：つかもう、子どもの心！

学級経営スタンダード



学級経営 5ヶ条

- 1、笑顔で元氣よく！
- 1、約束が守れる学級！
- 1、信頼関係のある学級！
- 1、共に学ぶ学級！
- 1、ひとりじゃない！

祝 勤続30周年～令和2年度教育・文化関係表彰～

令和2年12月10日、南会津町役場正庁において「令和2年度教育・文化関係表彰」の表彰式を行いました。本来であれば、福島市で開催予定でしたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となってしまいました。そこで、南会津町役場正庁をお借りし、南会津地区独自の表彰式を行いました。

南会津の教育の発展のために長い間尽力されてきた先生方です。本当におめでとうございました。





◇ 令和2年度受賞の記録 ◇



【文部科学省】
 ○社会教育功労者 **猪股純一**
 ○優良 PTA 文部科学大臣表彰
朝日小学校父母と教師の会
 ○ESD 大賞文部科学大臣表彰 **只見中学校**
 ○ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会
最優秀賞 只見中学校

【全国学校体育研究連合会】
 ○全国学校体育研究優良校 **南会津高等学校**

【福島県】
 ○学校関係緑化コンクール
 公益財団法人ふくしまフレスト・エコ・ライフ財団理事長賞
下郷中学校
 ○PTA 連合会会長賞 **伊南小学校**
 ○温暖化防止にみんなで取り組む「福島議定書」事業
最優秀賞 檜原小学校
優秀賞 伊南小学校

○かべ新聞コンクール
只見小学校 長澤秀弥
只見中学校 目黒英樹

○優秀児童・生徒の部 **只見中学校**
 ○優秀教職員(団体の部) **只見中学校**
 ○社会教育功労者表彰 **星 尚子**
 ○社会教育関係団体表彰 **荒海中学校父母と教師の会**
 ○福島県教職員研究論文 入選 **朝日小学校**
 ○食育推進優秀校表彰 **優良賞 桧沢小学校**
 ○ふくしまっ子ごはんコンテスト **学校賞 伊南小学校**
学校賞 荒海中学校

○ふくしまっ子体力・健康優秀校
 ☆なわとびコンテスト 9人以下低学年の部
第1位 伊南小学校


【福島県学校保健会】
 ○学校保健功労者 **南会津高等学校学校医 中谷 武**
 【福島県学校給食会】
 ○学校給食優良団体・功労者 **田島小学校 飯塚康子**
 【福島県歯科医師会】
 ○学校歯科保健優良校表彰 **優秀賞 旭田小学校**
優秀賞 只見小学校
優秀賞 檜枝岐小学校

【福島県交通対策協議会】
 ○交通安全優良学校 **檜枝岐中学校**

【福島民報社】
 ○ジュニアチャレンジ **グランプリ 只見中学校**
 【ニッセイ財団】
 ○ニッセイ財団児童・青少年健全育成
下郷ジュニアソフトボール

＜県教育委員会主催のコンクールで
 最優秀賞・優秀賞に輝いた児童・生徒を紹介します＞

☆野口英世賞 最優秀賞 **田島中学校 掃部夏央**
 ☆朝河貫一賞 最優秀賞 **只見中学校 大川桃果**
 ☆福島県ビブリオバトル中学生の部
最優秀賞 田島中学校 細井淳一朗
 ☆17字のふれあい事業 絆部門
最優秀賞 田島中学校 星ほのか/星珠江(母)
 ☆ふくしまっ子ごはんコンテスト
 小学校上学年の部 **優秀賞 田島小学校 宮島清良**
 中学生の部 **優秀賞 下郷中学校 佐藤桃奈**
 ☆「モラル・エッセイ」コンテスト
優秀賞 南会津中学校 芳賀愛梨花



◇ 管理の窓 ◇

～次代を担う南会津の子供たちのために・・・！！～

- ◆ 本年度も南会津域内においては不祥事案件は発生しておりません。域内の教育関係者の皆様におかれましては、それぞれのお立場で不祥事根絶に向けてご尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。しかし、学校事故に関しては、教職員の負傷事故(けが等)が6件発生(1月現在事務所報告)しており、県内でも増加傾向にあります。学校施設設備の安全管理はもちろんですが、先生方もご自身の力を過信せず、十分準備をした上で指導に当たるよう努めていただきたいと思います。なお、公務災害認定請求をする場合は、事故報告(第1報)同様、関係書類を町村教育委員会を通じて速やかに提出するをお願いします。事故報告書については、傷病が完治した後で提出いただくようになります。
- ◆ 次年度より域内(西部地区)に奥会津枠での新規採用者が配置となるなど、県教委として現状を踏まえながら域内の教職員の人材の確保に努めています。学校現場においても、子供たちが教師の魅力を感じられるような関わりと郷土愛を育む教育の充実を図り、将来地元の教員をめざす人材育成をお願いします。なお、次年度の講師等の確保のため、情報等がありましたら、教育事務所へご連絡ください。
- ◆ これからの時代を支える学びとして、次年度より国のGIGAスクール構想によるICT教育が本格化します。域内においても、昨年12月に町村教育委員会担当者と各校の担当教員を対象に研修会を開催しました。その中でいくつかの課題が出されましたが、課題解決のためにはより一層町村教育委員会と各学校が情報を共有しながら連携を深めていくことが大切だと思います。特に効果的な予算の執行のためには地教委と各校の情報交換がとて大切で、そのために事務所としても情報提供等、今後も行っていきます。



編集後記

「南会の 子らの活躍 満開だ」今年度の南会津域内の子供たちの活躍は実に素晴らしいものでした。コロナ禍における様々な制限がある中、自分の思いを表現する子供たち、それを支える先生方、家族の皆様、地域の方々、本当におめでとうございました。
 またご多用の中、原稿を書いてくださった皆様、ありがとうございます！



